

「会員短信 22」

「白毫(びやくごう)」

田中 勇

体の一部分に一本だけ長く生えてくる透明もしくは白色の毛を、「福毛」とか「宝毛」といいます。

白毫は、仏様の眉間のやや上に生えている白く長い毛のことです。右巻きに丸まっていて、伸ばすと一丈五尺（約四・五メートル）もあるとか。光を発し、それは、仏様の慈悲の光とされています。

耳孔の毛は、人相学では耳毫と呼ばれ、長寿の相とされています。

新緑や福耳の孔の毛伸ぶる

これは、私が俳句を始めて間もない頃の句で、会報に秀逸として掲載していただいたものです。

老いて来た私は、ほぼ毎日ヨガの屍のポーズだけをしており、屍のポーズで白毫相を観じたり、美しい景色を眉間に描いたりしています。屍のポーズだけでもこれを極めるのは大変難しく、これが出来るのは本当に死ぬ瞬間かと想います。屍のポーズと俳句は共通するものがあります。俳句も単純なようで、文学で一番難しいものだからです。

また、俳句には嘘の世界とは違う真実があると想っています。これからも屍のポーズと俳句で心身ともに健康な毎日を送りたいです。

五七五の会話をかはし黄水仙

落蟬や成さねばならぬに野垂れ死に

毛糸編む暇を持ち寄る女かな

催眠術かけられしまま目借時

ひやとひのドヤの窓にも冬の虹